

## 近代日本の教育とキリスト教 (6)

— 1880年代におけるキリスト教徒の教育活動 <1> —

平沢 信康\*

## Christianity in Modern Japanese Education (6)

— Christian Educational activities in the 1880's <1> —

Nobuyasu HIRASAWA\*

### Abstract

Confucianism had gradually become dominant, especially in the moral educational policy of the Meiji government in the 1880's. At the same time, however, westernization was still strong in Japan of those days.

Even the government carried on a westernized policy to show Western manners of Japanese society toward Western countries (rokumeikan-age).

As new Christian sects added, many missionaries came over the ocean into Japan. In the 1880's Christianity had become more and more popular among Japanese. Many mission schools were founded by missionaries.

Japanese Christians also established private schools. Some of them even planned or organized universities in rivalry with the one large governmental university (The Imperial University=Teikoku-Daigaku). Among the major higher education schools and the major cities of Japan, the YMCA movement had been spread to propagate Christianity.

This paper describes the Christian educational activities and the foundation of schools in the 1880's.

**KEY WORDS:** *Modern Japanese Education, Christianity, Educational Cultural Exchange*

### はじめに

本稿は、キリスト教の教勢が隆盛であった1880年代を対象時期とする。

この時代は、1880(明治13)年12月28日に教育令が改正され、確実に、儒教主義と国家主義が強まっていった時代である。文部省の文教行政は、1880年を境として、開明主義から保守政策へと転換している。しかし、政治史的・思想的には、

同時になお欧化主義の思潮も強く、1883年11月28日には鹿鳴館の開館式が催されるなど、いわゆる鹿鳴館時代といわれる華やかな世界が出現した。

時代の空気は変貌していった。1886(明治19)年に諸学校令が公布されて日本の学校制度が基本的に整備され、さらに、徳育をめぐる論争と混乱をへて、皇国史観と儒教道徳を基調に執筆された教育勅語が1890(明治23)年に発布され、教育の根本方針が確定する。こうして、やがて欧化ブー

\*鹿屋体育大学 National Institute of Fitness and Sports, Kanoya, Kagoshima, Japan

ムは確実に下火にむかっていった。

以下、この10年間におけるキリスト教関係者の教育活動をみていきたい。

まず初めに、その背景ないし前提となるキリスト教の教勢の当時における拡大状況を一瞥し、第2に、そのうえで各教派別に具体的な学校設立のありさま・経緯を記述する。この時期、キリスト教教育界の指導者たちのなかには、官立の大学への対抗意識も働いて、大学設立への構想をいだく者が現れ、キリスト教系の学校のなかには、実際に「大学(校)」を自称するものも出現した。そうした事例を第3に叙述する。第4に、80年代に入って結成され始めたキリスト教青年組織について触れたい。YMCAの事業には教育へのかかわりをもつものが少なくなく、キリスト教教育の発展の一端を担ったからである。第5に、キリスト教主義女学校のさらなる創設と隆盛ぶりを記述する。第6に、児童福祉事業と幼児教育へのキリスト教徒の貢献を紹介し、第7に教誨事業への進出という、監獄における教育活動にふれる。最後に、キリスト教の教勢拡大が終息へ向かって行ったことを説明する、という順序で執筆していきたい。

なお、今回は誌数の関係で、1と2のみしか掲載できず、3以降の論述は、次稿にまわさざるをえなかった。(2もプロテスタントの部分にとどまった)

## 1 教勢の拡大

1880年代に入っても、キリスト教の隆盛は続いた。隣国の朝鮮では、80年代前半にあってもなお、キリスト教の進入に対してきわめて拒否的であった。<sup>1)</sup>しかし、日本では事情が異なった。80年代に入ると、とくにキリスト教の教勢は強力になっていった。キリスト教の信徒数は82年に4500人であったが、87年には約3万人というように、非常な勢いで広まっていった。

1880年10月11日に『六合雑誌』が東京青年会によって創刊され、10月12日と13日に野外耶蘇教大演説会が上野公園で開催された。83年1月6日から4月10日にかけて、イービらが「第一東京演説」

を明治会堂で開催し、同年1月には、横浜でリヴァイヴァル Revival が起こった。礼拝・祈禱会などでカリスマ的指導者の説教や祈禱に触発され、信仰的感情が熱気を帯び、聖霊の臨在が唱えられ、信仰の冷却をおぼえていたものがその復興を体験するといわれる現象である。

横浜の内外教職・信徒たちの初週祈禱会は活気を帯び、やがてリヴァイヴァルとなり、同年5月8日から5月12日まで第3回基督教信徒大親睦会が東京で開催されたが、そこにも波及して大盛況を呈した。関東・関西の諸教会の信徒たちは、その感動を持ち帰り、活発な伝道活動に従事した。

1872年に横浜で開かれた第1回宣教師会議において各派から新約聖書翻訳委員が選出されたことにより開始されていた聖書翻訳作業は、79年に訳業が完成し(74-79年にかけてブラウンが新約聖書翻訳委員会委員長として聖書の翻訳に携わった)、翌80年4月19日、日本で最初の新約聖書『新約全書』の完成祝賀会が築地・新栄教会で行われた。旧約聖書の翻訳も宣教師による委員会組織を中心に進められ、87年に完成し、翌88年2月、全訳完成の祝賀会が行われた。こうして、80年以来、キリスト教書の出版は急増していった。

83年4月16日から4月21日まで、第2回宣教師会議が大阪で開催された。この年の7月30日、湯浅治郎・小崎弘道・植村正久・浮田和民が発起人となり、警醒社が東京に設立された。超教派的な賛同者をもって広く全国に株主を募り、外国ミッションの援助から独立して設立されたこの書店は、『東京毎週新報』を創刊し、『六合雑誌』の刊行を引き継ぎ、書籍の出版、伝道文書の発行、ミッション系出版社の刊行書の取次・販売などを行った。

翌84年3月16日、同志社でリヴァイヴァルが高まり、関西、四国、群馬、仙台の諸教会にその連鎖反応が生まれた。そうした高揚は、つづく数年の間に中部日本を縦断して広まった。85年5月7日、第4回全国基督教信徒大親睦会が京都で開催され、同会を福音同盟会と改称することとなった。

83年来、明治政府は条約改正を有利に実現するために、いわゆる鹿鳴館時代に象徴される欧化政

策を採った。安政条約以来の不平等条約を改正することは、明治政府の最重要課題であった。外務大臣・井上馨が中心になって、政治・制度ばかりでなく、思想・風俗習慣に至るまで欧米化を図り、列強に日本の近代化を認めさせようとした。そのため伝統が軽視され、各種の改良運動が展開され、はなはだしい例としては国際結婚を奨励して日本人の人種改良を図ろうという論まで現れた。それとともに、政府はじめ指導的な人たちのなかには、キリスト教とその倫理に好意を示して接近を図る者が少なくなかった。

この時期には、また、のちに近代日本文学史上に名を残す文学青年たちがキリスト教に入信している。88年3月4日に北村透谷が数寄屋橋教会で田村直臣より受洗したほか、前年に明治学院に入学した島崎藤村が、高輪台町教会で木村熊二から受洗している。

こうした動きを見て宣教師のなかには、10年以内に日本はキリスト教化されると豪語する者も現れたほどであった。83年に開かれた在日プロテスタント宣教師総会では、数回のリヴィヴァルをみて、コンスタンチヌス帝の時代以後、史上例を見ない速さで、日本はキリスト教を受け入れつつあり、20年以内に日本はキリスト教国となるであろうとの発言もなされた。

## 2 各教派における学校の発展

以上の社会状況を背景として、明治10年代以後、明治22年前後の間において、いわゆるミッション・スクールの発展にはめざましいものがあった。

キリスト教各派は、教育事業を宣教活動の中心に位置づけ、早くから聖職者の要請にとどまらず、広く西欧的教養の教育をめざす諸学校の設立を積極的に推進してきた。1888年の調査によれば、神学校数12校、在学者数233人に対して、キリスト教主義に立つ諸学校とその在学者数は、男子校が14校、2072人、女子校は36校、3287人を数え、教育事業の中心がすでに世俗的な教育を主体とする、初等教育から高等教育にいたる諸学校の経営にあったことがわかる。ミッション・スクー

ルの隆盛ぶりは、男子校に関してみても、82年には8校、生徒数280名にすぎなかったことをみても理解できよう。<sup>2)</sup> また、5000人をこえる在学者数を、当時の信徒数24000人と対比するとき、教育事業が布教活動にいかに関与する重要な位置を占めていたかがうかがわれよう。

すでに来日して活動していた教派に加え、この時期には、新たに幾つかの教派が参入してきた。各派において新しい学校が設立され、また、ときには教派をまたがるかたちで、それまでに創設された学校が再編統合されていった。以下、キリスト教主義学校の設立経緯を、各教派ごとにやや詳しくみていきたい。

## I プロテスタント

### 1) アメリカ・オランダ改革派教会

スタウトが長崎で始めた神学教育は、1881年に日本基督一致教会西部中会によって承認された。

フルベッキが開いた家塾での教育事業を継いだスタウトは、宗教教育は自宅で行うという条件で新大工町に学校を開設し、男子30名・女子50名の生徒を得て盛況であったが、聖書を教えたとして非難され閉鎖した。その後、彼は自邸内に会堂を新築して、英語教授と聖書講義を行い、日曜学校や祈禱会を始めた。聖書講義は、87年9月26日開校のスティール・アカデミー（のちの東山学院）として実を結んだ。亡父の記念として学校建設のため私財5000ドルを寄付した本国の伝道局長スティール Steel, W. H. に由来する校名であった。開校当時は普通学部と神学部の2科に分かれ、普通学部は予科2年・本科4年、神学部は3年であった。

1886年に宣教師として来日したオルトマンズ Oltmans, Albert 1854.11.19-1939.6.12が、直ちに東山学院の院長に就任して3年間在職した。オランダのフローニンゲン県に生まれ、73年にアメリカへ移住し、ポーブ大学とニューブランズウィック神学校を卒業した人物である。東山学院神学部の日本人の教授としては瀬川浅がいる。豊前中津藩の儒者の子として東京の中津藩邸に生まれた彼は、スタウトの門に入り、のち東京一致神学校

に入学し、鹿児島伝道などをした人である。

宣教師アメルマンの働きかけによって、先志学校が生まれる。この学校は、東京一致神学校へ進学すべき学生のための予備校として企画された。

81年9月、再来日したワイコフによって横浜山手48番土方坂に創立された。先志学校は、当初、昼間は商館その他に勤務する者を主体とする寄宿舎のある夜学校風のものであった。先志学校という校名は、非常勤で漢文を講じていた教師の熊野与の命名によるといわれる。旧大村藩士の熊野は、藩命により昌平校および安井息軒の塾に学び、藩校塾頭や長崎御用掛りなどを歴任した人物で、享堂と号した。教師はほとんどワイコフひとりであったが、その家庭的雰囲気は学生に深い宗教的影響を与えた。まもなく、改革派・長老派両ミッションの伝道と教育に関する提携の原則にしたがって、83年9月東京の築地大学校と合併、東京一致英和学校となり、ワイコフは数名の学生とともに東京築地に移る。

## 2) 長老教会

北部長老教会の宣教師ウィン Winn, Thomas Clay 1851.6.29-1931.2.8が、82年、北陸金沢に学校を創設している。

アメリカのジョージア州フラミントンに牧師ジョンの第3子として生まれた彼は、祖母ブラウン (Brown, Phoebe H., 賛美歌319番の作詞者) および伯父ブラウン S. R. の感化を受けて、幼少の頃より海外伝道の夢をもった。1877年ユニオン神学校を卒業後、医学と看護学を修め海外伝道の志をもつライザーと結婚、同年12月に来日した。横浜で日本語の勉強をしながらバラの私塾を助けていたが、79年10月、石川県中学師範学校 (のちの第四高等学校) からの要請に応え、金沢に英語教師として赴任、その後、妻と協力して、七尾、高岡、富山、小松、大聖寺にまで伝道の範囲を広げた。<sup>3)</sup>

学校教師としての契約終了後も、彼は妻と共に金沢にとどまり、82年4月、大手町の教会に私立・愛真学校 (のちの北陸英和学校, 99年廃校) を開校した。

## 3) 聖公会

アメリカ聖公会のウィリアムズが指導性を発揮して設立された東京三一神学校では、82年春、立教大学校の校舎と並んで新校舎が建設された。まもなく、共同設立者のイギリス海外福音伝道会のショウとライトの両名が伝道上の都合で教授を辞したため、この学校はアメリカ・ミッションの単独経営となった。また立教の学生から聖職志願者があいついだため、85年には大阪からモリス A. R. を招いて神学教育に当たらせた。<sup>4)</sup>

大阪では、84年9月、居留地18番に煉瓦建校舎が建築され、主教プール, A. W. の落成感謝礼拝によって大阪三一神学校が開校した。82年6月1日から、イギリス教会宣教会の宣教師ワーレン Warren, Charles Frederick 1841.2.12-99.7.8が、自宅に2人の日本人を寄宿させて神学の組織的教育を試みたのが始まりであった。85年には同会の宣教師チャップマン Chapman, George 1858-1940.10.2が来日して、教鞭をとった。

神学校と同時に、ワーレンは、84年9月4日、大阪居留地3番の大阪三一教会に男子生徒を集めて、英語塾 (桃山学院の前身) を開設した。86年12月には、宣教師ダン Dunn, Thomas 1842.4.10-1916が大阪に着任し、この塾で妻と共に英語の授業を担当して教育内容を充実させた。翌年にかけて塾で学んだ生徒は42名になったが、うち15名は寄宿生で、そのほとんどがクリスチャン家庭の子弟であった。

ウィリアムズは東京の三教会を司牧するのみならず、その足跡は関東一円におよび、幾度かは清国教会の指導のために中国へ渡った。祈禱書はじめ聖公会関係の教書のほとんどは、その多忙なかで彼が訳編したものであった。英米聖公会3ミッションの共同をはかった彼は、議長として日本聖公会を組織した。<sup>5)</sup>

87 (明治20) 年2月、イギリス教会系2ミッション (イギリス海外福音伝道会とイギリス教会宣教会) とアメリカ監督教会ミッションとが合同して、日本聖公会が成立した後も、神学教育機関としては、アメリカ聖公会は東京三一神学校、イギリス海外福音伝道会は聖教社神学校、イギリス

教会宣教会は大阪三一神学校と、ミッション経営の神学校が存続した。

イギリス教会宣教会の宣教師バッチェラー Batchelor, John 1854.3.20-1944.4.2の活動は特筆さるべきであろう。彼は、88年秋、アイヌ人の教育のために愛隣学校を北海道胆振国幌別に開設した。

サセックス郡アクフィールドに生まれた彼は、園丁として働いたが、東洋伝道を志して76年香港のセント・ポール学院に入学した。健康を害し、77年5月5日、静養のために函館へ来て、デニングの伝道を助けるうちアイヌ人への伝道に使命を覚え、79年イギリス教会宣教会（CMS）に入会、神学教育を受けるために帰国した。その年早くも「アイヌ民族に関する覚え書き」を発表し、83年に再来して函館を根拠に有珠・平取などのコタン（アイヌ人村落）への伝道と福祉のために献身した。たちまちアイヌ語と日本語に通達した彼は、聖書・祈禱書のアイヌ語訳に着手した。84年、邦文の『蝦夷今昔物語』を刊行、半年にわたる北海道各地のアイヌ人伝道旅行など活発な活動を始めた。スパイとして告訴されるような事件も起こったが、86年幌別に根拠を移し、87年12月、東京聖アンデレ教会でピカーステス主教より執事按手を受け、翌年、幌別に愛隣学校を開設した。当初13名を収容し、校長に金成太郎を任じた。<sup>6)</sup>

#### 4) アメリカ・メソジスト監督教会 (Methodist Episcopal Church, U. S. A.)

宣教師と邦人信徒らの協力により78年に東京築地に設立された耕教学舎は、81年、東京英学校と改称する。耕教学舎は81年4月に廃業し、同月、神谷齋名義によって開学された東京英学校に引き継がれ、経営責任者は、菊池から杉田（元良）勇次郎、和田正幾に交替した。東京英学校は初等中学科と高等中学科の年限と内容とを併せもつ中学校で、幸田露伴も1年間ここに学んだ。

和田正幾1859.9.6-1933.4.23は幕臣の末子として江戸本所に生まれ、大政奉還後、父に従って沼津に移住して少年期を過ごした。江原素六の世話で旧幕臣和田茂の養子となった彼は、上京して開

成学校の官費生となり、化学を修めたが、17歳のときコクランから受洗し、伝道者となる決意を固め、同志社神学校に移った。一年間新島襄の薫陶を受けるが、健康上の理由で退学し、群馬県安中で静養中、安中や前橋で伝道に従事したが、伝道には不向きであると覺り、上京して81年から耕教学舎で数学・物理・化学・英語を教えた。やがて学校の経営を任せられ、校名改称後も引き続き、教授を続けた。

同教会の日本宣教部会の協力により、79年にマクレーが中心となって横浜に設立された美会神学校は、ヴェール校長以下の教授陣をもって、短期間に有為の伝道者を輩出した。この学校には、イングの紹介で米國アスベリー大学に留学して帰国した佐藤愛磨が教授としていた。美会神学校は、美以教会本部の東京移転を機に、東京英学校と82年9月に合同して横浜から東京に移る。翌年、渋谷に移転し、83年9月、校名を東京英和学校（Tokyo Anglo-Japanese College）と改称して学制を確立し、組織・内容を整えた。正科5年に予科を備えた中等学校レベルであった東京英学校は、校名を改称することによって教育水準を向上させた。<sup>7)</sup>

牧師で教育者でもあるガウチャー Goucher, John Franklin 1845.6.7-1922.7.19が、東京英和学校新設のため、また87年には同校の新校舎（ガウチャー・ホール）設立のために多額の寄付をしている。米國ペンシルヴェニア州ウェインスポロに生まれ、ディキンス大学に学んだ彼は、アメリカ・メソジスト監督教会で按手札を受け、各地に教会を設立して伝道、富豪の相続人であるメアリー・セシリア・フィッシャーと結婚し、インド・中国・日本におけるメソジスト伝道事業のために多大の援助をした人物である。<sup>8)</sup>

東京英和学校設立に際しては、会津若松出身の栗村左衛門1849.7.20-1929.5.17が、参与として尽力している。彼は会津藩士の次男として生まれ、横浜に出て警察官をした後、牧師となった経歴の持ち主である。マクレーとバラの立ち会いのもとに小山さい子と海岸教会で結婚式を挙げ、最初のキリスト教結婚式であったというので、大勢

の見物人が集まった。<sup>9)</sup>

後の青山学院の母体となる東京英和学校の総理には、設立時から88年までマクレーが務めた。

この学校の外国人教師の一人に、アメリカ・ニューハンプシャーのコンコードに生まれのヴェール Vail, Milton Smith 1853.3.7-1928.9.19 がいる。彼は13歳のときに受洗、ベニングトン神学校・ボストン大学等を卒業、はじめオハイオ大学助教授となったが、東洋伝道の使命を感じ、79年、アメリカ・メソジスト監督教会メインの年會に教職試補として入会を許され、直ちに横浜の美会神学校の校長を命ぜられ、同年9月13日、妹のジェニールを伴って来日した経歴の持ち主である。82年に美会神学校が東京へ移転して東京英学校と合同して東京英和学校となってからもひきつづき神学部長・教授として尽力し、牧師養成につとめるかたわら伝道に当たった。休暇によりいったん帰米し、85年フェリス女学校の校長ワイトベクと結婚した。<sup>10)</sup>

他に、ニューヨークのレキシントン街生まれの婦人宣教師アーリング Alling, Harriet S. 1862.12.19-1916.2.11 が87年9月24日に来日し、東京英和学校で教えている。彼女は83年にオスウィーゴのニューヨーク師範学校を卒業し、87年までミシガンとインディアナの諸学校で教えた女性である。

87年、本多庸一が東京英和学校の校主兼教授に就任した。弘前教会創設の中核であった本多は、牧会伝道のかたわら、78年から東奥義塾塾長・青森県会議員・県会議長を務めた政治的手腕の持ち主であり、80年以降、青森県下の自由民権運動のリーダーとして活動した。メソジスト派との関係が深い東奥義塾のリーダーであった菊池や本多らは、政治団体「共同会」を結成して自由民権運動を展開した。世間ではこれを「東奥義塾党」と称した。自由民権の思想に目覚めた愛国者へと自己変革していった彼らは、教育啓蒙運動にとどまることなく政治運動へ、民意を国政に反映させるための国会開設請願運動を展開する道を選択した。しかし本多は86年9月に県会議員を辞して政界を離れて、10月仙台教会の牧師として赴任した。その後の上京であった。

鎮西学院の前身校も、この時期に生まれた。宣教師ロング Long, Carroll Summerfield 1850.1.3-90.9.4 が長崎東山手の外国人居留地内の自宅の書齋で数名の生徒を相手に英語と聖書を教授するのに始まる。その後、木造2階建洋館の校舎を東山手4番に完成して、81年10月23日、開校した。校名は、建設資金の最初の寄付者であるカブリー夫人 (Cobleigh, Charlotte M. ロングの母校テネシー・ウェスレヤン大学元総長未亡人) を記念して、カブリー・セミナリー (加伯利英和学校) と命名された。<sup>11)</sup>

テネシー州アセス・マックミンに牧師の長男として生まれたロングは、75年、東テネシー・ウェスレヤン大学を卒業後、教会牧師とキャンポラー・カレッジ学長を兼務したキャリアの持ち主である。メソジスト外国宣教局の任命を受け、教育宣教師として80年4月4日、長崎に渡来した。出島を中心に伝道活動をしていたデヴィソンの協力を得て、外国人居留地東山手16番に居住し、日本の青少年のためのキリスト教による教育を行う学校の設立をめざした。82年4月には、九州全域にわたる伝道事業を管理する長崎教区の責任者となった。

加伯利英和学校は、89年の学則変更に伴い、鎮西学館と改称し、神学科などを設けた。

熊本出身で同志社をへて加伯利英和学校を卒業した遠山参良1866.2.27-1932.10.9が、同校の教師となっている (1900年、夏目漱石に請われて第五高等学校英語科主任に就任)。

ロングはまた84年10月末、谷川素雅を福岡に派遣し、不破唯次郎の助力を得て、11月、福岡美以美 (福岡中部) 教会を創立し、翌85年1月に竹内 (安部) 磯雄を招いて英学校を創設した。同年6月、羔血義塾と改称して、漢籍と算術の2科を増設し、86年2月には呉服町の教会移転跡に移った。女学校開設準備を兼ねて福岡に来たギールも教授に当たったが、その夏、教会が分裂、谷川は辞任し、閉校に追い込まれた。<sup>12)</sup>

#### 5) アメリカ南メソジスト監督教会

(Methodist Episcopal Church, South)

1885年5月、アメリカ・南メソジスト監督教会の外国伝道局は、第39年会の日本宣教開始の決議に基づき、翌86年9月17日、神戸居留地47番に日本宣教部を開設し、中国からランバス父子を派遣した。これによって、関西学院が開設されることになる。

宣教医ランバス、J. W. の長男として父の赴任地である上海で生まれた宣教師ランバス Lambuth, Walter Russel 1854.11.10-1921.9.26は、少年時代を中国とアメリカで過ごし、エモリー・アンド・ヘンリー大学とヴァンダービルト大学を卒業、神学と医学の二つを同時に学んだ。両親の待つ中国に宣教師として赴任し、各地で医療伝道に従事した後、86年、日本伝道開始に伴い、両親と共に宣教師に任せられ、日本宣教部の総理として神戸に渡来した。着任2日後、父が神戸居留地46番地に開いていた英語夜学校を基として設けた「読書館」を拠点に伝道と教育活動を開始した。

86年11月、ランバスによって神戸居留地47番に設立された読書館を前身として、それを発展させるかたちでパルモア学院 Palmore Institute が神戸市東郊原田の森（現・王子公園）に創設された。校名は87年1月、最初の寄付者である米国ミズーリ州の牧師パルモア (Palmore, W. B.) にちなんで命名された。88年9月に昼間部が開設され、翌89年10月、それが独立して関西学院となった（89年9月28日設立認可）。神学部と普通学部からなり、ランバスが初代院長に就任した。設立時に制定された学院憲法は、教育の基本方針を「基督教ノ伝道ニ従事セントスル者ヲ養成シ、且ツ基督教ノ主義ニ拠リテ日本青年ニ知徳兼備ノ教育ヲ授クルニアリ」とうたっている。<sup>13</sup>

関西学院の創立に際して、官辺との折衝を要する手続きを助けるため、中村平三郎1864.5.24-1929.7.10が学院の教員・幹事兼校主として庶務を管理した。当時、私立学校の校主は日本人であることを必要としたので、彼が兵庫県に提出した私立関西学院設立願の設立者となった。中村は、大阪中学校英語科を卒業、84年大阪に私立予備学

校を設立し、みずから校主兼教員として経営に当たった。たまたまランバスがこの学校で英語を教えていた関係から、学院設立に協力するようになった。中村はランバスに導かれ、88年にデュークから受洗している。

米国サウスカロライナ州出身であるニュートン Newton, John Caldwell Calhoun 1848. 5.25-1931.11.10が、88年来日し、東京英和学校神学部の教授となっていたが、翌年9月、関西学院創設と共に、神学部の教頭となった。明治初期に来日した宣教師や外国人教師のなかには、南北戦争の経験者が少なくないが、この人も南北戦争に従軍している。ケンタッキー陸軍兵学校とジョンズ・ホプキンス大学研究科に学んだ異色の経歴をもつ宣教師である。

#### 6) アメリカ・メソジスト・プロテスタント教会

1828年に監督制を否認して分離し、1880年に日本伝道を開始したアメリカ・メソジスト・プロテスタント教会からは、ワシントン生まれの宣教師クライン Klein, Frederick C. 1857, 5.17-1926.12.27が、83年9月23日来日した。直ちに教育伝道を開始して横浜英和学校を設立したほか、基督教青年会と禁酒会をも組織した。87年7月11日には、伝道を目的として私立愛知英語学校（のちの名古屋学院）を南武平町27の民家に開設した。<sup>14</sup> 名古屋桑名町の同校校主・山根虎治郎に招聘されたもので、12名の生徒・7名の教師で4年制の英語塾を開始したものである。同年11月、同町に移り、名古屋英和学校と改称した（校主豊田一雄）。校内に伝道所を開き、アメリカ・メソジスト・プロテスタント教会伝道局の経営下に名古屋地区宣教の砦とした。88年4月から予科4年・本科2年制とし、予科は一般教養、本科は神学、語学を中心にキリスト教主義に基づいた宗教教育を行った。

#### 7) カナダ・メソジスト教会

カナダは19世紀半ば過ぎに太平洋岸に到達した。カナダ・メソジスト教会は初めての外国伝道の地として日本を選び、優秀な宣教師を派遣し、各地に英和学校と呼ばれる学校を設立した。この

派の最初の来日宣教師であったコ克蘭は、79年に一時帰国したが、84年に再来し、同年10月、東洋英和学校を創立して校長となった。

コ克蘭のもとで英語を学んだ浅川広湖が、83年、下谷教会時代に東洋英和学校会社社長の任を負い、コ克蘭を助けて同校の設立にあたった。明治の初め、沼津兵学校附属小学校に学んだ浅川は、73年から横浜に出、その後、東京のコ克蘭宅に寄宿し、75年、中村正直夫人とともに受洗した人物である。76年9月9日、教職試補に挙げられ、81年9月18日、宣教師ミーチャムから按手礼を受け、甲府・静岡・牛込・下谷の教会を担当した。(その後、彼は牧師を辞任し、89-90年には長野県尋常師範学校の教員を務め、同地で89年6月から日曜日ごとに自宅を開放して聖書研究会を開き、師範学校の生徒たちを大勢集めた)

84年3月、学校設立のため再来日したコ克蘭は、麻生島居坂の校舎と寄宿舎を建築し、開校認可を申請したが、外国人居留地外に外国人が居留することは認められず、小林光泰1858.8.12-99.6.2を設立者として、ようやく10月15日に認可され、11月、高等・尋常科を開設した。小林は、湯島の共憤塾・長野師範学校に学んで小学校教師となり、甲府に伝道中のカナダの宣教師イービについて英語を修め、イービから受洗して彼を助けて伝道した後、上京して神田美土代町講義所、ついで牛込教会に転じていた人である。<sup>15)</sup>

そのほか、東洋英和学校の設立に大きな役割を果たした人に、英国スコットランド生まれの宣教師ホイットントン Whittington, Robert 1850.6.7-1945.6.9がいる。67年にカナダに移住し、トロントのヴィクトリア大学でM. A.を取得し、数年間オンタリオで教鞭をとった後、按手礼を受けてトロント年会員となった。妻と共に84年来日し、青山にあるカナダ伝道団体、南メソジスト伝道団体とメソジスト・エписコパル伝道団体が共同経営する合同神学校でも教えた。

創立時の首席教員には佐藤顕理1859-1926.6.23が就任した。江戸に生まれ、75年に静岡でマクドナルドから受洗した彼は、カナダ・メソジスト教会最初の受洗者の一人として静岡教会を組織し

た。その後、上京して築地居留地内のミーチャム方に寄寓し、その手伝いをしながら、彼や中村正直から英学を学んだ後、アメリカへ遊学し、帰国後は静岡県師範学校の教員を務めていた。

札幌農学校に学びクラークのイエスを信ずる者の契約に署名した渡瀬寅次郎が、89年に同校の教師となっている。クラークを島松駅に見送った彼は、開拓使御用掛、ロンドン万国博覧会事務官、水戸中学校長、茨城師範学校長などを歴任した人物である。なお、東洋英和学校で教えていたラージ Large, Thomas Alfred が、真夜中に自宅に押し入った2人の男に切られて死亡するという痛ましい事件もあった。米国オンタリオに生まれ、ヴィクトリア大学を卒業し、85年来日していた人である。

東洋英和学校の生徒数は86年に400余となり、9月には神学部を増設し、また麻布永坂町に幼童科を開設した。しかし、国粹的反動期を迎え、校運は衰え始め、89年に江原素六を幹事に迎えたが、翌年、彼は衆議院議員となって同校を辞任し、平岩愼保が同校総理となった。

石川県金沢では、金沢英学院が生まれる。自給伝道隊の一人として88年来日したマッケンジー McKenzie, Daniel R 1861.2.16-1935.4.1は、第四高等学校教師として英文学などの講義のかたわら自宅に英語聖書会を開くが、それがやがて金沢英学院に発展していった。<sup>16)</sup> オンタリオ州カロドゥンに生まれ、ヴィクトリア大学とウェスレアン神学校を卒業した彼は、学生時代に霊的リヴァイヴァルを体験して日本伝道を啓示され、カナダ・ミッション宣教師となった。

#### 8) アメリカ・バプテスト教会

1884(明治17)年10月6日、横浜の山手64番に、横浜バプテスト神学校が創立される。86年、山手75番Bに移るが、関東学院の源流の一つとなる。

この学校は、バプテスト教会執事の子としてフィラデルフィアに生まれたベネット Benett, Albert Arnold 1849.4.16-1909.10.12が設立し、94年まで校長を務めた。敬虔な両親に育てられた



彼は、13歳でバプテスマを受け、ブラウン大学に入学、72年に文学修士の学位を受け、のちシカゴの神学校(現シカゴ大学神学部)に学び、75年に卒業した。在学中、外国伝道への召命を感じ、卒業した年の12月に按手礼を受け、ホリストンのバプテスト教会牧師を4年間務めた後、79年来日、横浜でブラウンを助けて伝道活動に従事した。日本人教役者の養成の必要を感じた彼は、自宅で聖書や説教を教え、伝道者養成に当たっていた。<sup>17)</sup>

学生は当初5名であった。教師はベネット(聖書釈義、説教)のほか、ポート、T. P. (教会史)、フィッシャー、C. H. D. (神学)が担当し、86年12月に来日したハリントン Harrington, Charles Kendall 1858.3.14-1920.5.13が旧約学の教授となった。カナダのアケディア大学、さらにニュートン・センター神学校、モルガン・パーク神学校に学んだ人物である。

#### 9) ディサイプルス(基督教会)

Christian Church (Disciple of Christ)

19世紀の初め、アメリカ教会内に起こった教会改革や復興運動の中から、1804年長老派教職ストーン(Stone, Barton W. 1772-1844)がケンタッキーに新教会(Christian Church)を設立し、キャンベル(Campbell, Thomas 1763-1854)とその子アレクサンダー(Alexander 1788-1866)も、09年にペンシルヴェニアにクリスチャン協会を組織した。両者とも「聖書のみをキリスト者の信仰と生活の規範とし、信仰箇条を排し、すべての教会は一つとなるべきである」と主張した。32年に両教会は合同して運動を進め、49年、全国大会をシンシナティに開催した。バプテスマ(原則として浸礼)・聖日ごとの聖餐式を2礼典とし、75年には大会決議により外国クリスチャン伝道協会(Foreign Christian Missionary Society)を組織し、外国伝道を本格的に開始した。この協会から最初に派遣されたのが、スミスとガルストの両夫妻であった。<sup>18)</sup>

米国オハイオ州出身のスミス Smith, George Thomas 1843.10.16-1920 は、南北戦争で負傷し捕虜となり、のちにベサニ大学に学んで10年間

牧会に従事し、83年に宣教師に任命され、ウェストポイント陸軍士官学校出身のガルストと共に10月中旬、横浜に渡来した。当時40歳で妻子があったが、鉄道もない不便な秋田を宣教の地に選んで翌年5月に赴任し、厳しい気候や偏見・貧困と戦いながら英和学校を興すなどして伝道した。農村伝道の先駆ともいべきこの行動は、首都や条約港からあまり離れて住もうとしなかった他教派の宣教師たちへの刺激となったが、着任後1年もたたない85年3月、妻が出産後に死去し、生まれた子どももその後を追って世を去った。<sup>19)</sup>

#### 10) 普及福音新教伝道会

1881年に独逸学協会が組織され、さらに83年10月には独逸学協会学校が設立され、政治的にドイツの学術の振興が図られた。ドイツにおいては、超教派的に普及福音新教伝道会 Der Allgemeine Evangelische-Protestantische Missionverein が、84年、東洋伝道のために組織された。そうした気運のなか、ヴァイマル大公国教会在京ドイツ人教会牧師として85年9月に来日した伝道会最初の宣教師シュピンナー Spinner, Wilfried 1854.10-1918.8.31は、87年4月、4年制の新教神学校(ドイツ名 Protestantisch-Theologische Akademie)を開設した。

ドイツのイエナ生まれのヘーリング Haring, Otto もまた、新教神学校で教えた。独逸学協会学校に教授として招かれ、84年来日した彼はその学識と人格とで衆望を得ていた。熱心な信仰者で、来日したシュピンナーを自宅に泊めて宣教に備えさせ、在京ドイツ人教会を設けるにあたって力を尽くした。スイスのチューリッヒに生まれ、同地の大学で神学を学び牧師となったシュピンナーは、学生をはじめ大学教授・政府官僚・上流階級の女性らに伝道し、87年に普及福音教会を設立した。

シュピンナーに次いで87年に、ザクセン生まれの神学者シュミーデル Schmiedel, Otto, 1858-1926 が来日し、この学校で教えている。ライプチヒ大学においてセム学・旧約聖書学のゲーテに師事、またハルナックの水曜会に所属して歴史主義的福音理解を深め、のちにイエナ大学に移って新約学

者の兄のパウルの感化を受け、史的イエスの研究に従事し、また組織神学者リプジウスに接してドイツ観念論、とくにカントの批判主義・理想主義に造詣を深めた人物である。普及福音新教伝道会の設立に当たっては準備委員となった。89年にはハイデルベルク大学を卒業したムンチンガー Munzinger, Carl 1864-1937.10.21が来日し、新教神学校で哲学および教義史を講じた。

自由キリスト教を主張する彼らは、日本に教理や教派にとらわれないキリスト教の形成を望み、またキリスト教と学術の調和、政教の協調という考えを持っていた。普及福音教会の機関誌『真理』は、ドイツ神学思想、とくにいわゆる新神学の波紋を、日本のプロテスタント教界に巻き起こした。

明治10年代の中頃までは、私立中学校がかなりの数にのぼっており、中学校の約8割を占め、残りが官公立であった。その私立中学の大部分は私塾的なものであった。その後、自由民権運動対策にからんで規制や弾圧を受け、私学が凋落してくると、そこに生まれてきたのが公立の中学校で、後には各県に一つずつしか認めない、という時期が訪れる（後の「名門」県立高校につながる）。中学校は県が作るものという考え方になっていく。

その間、私学の中等教育を支えたのがキリスト教主義学校であったが、そのなかには日本人クリスチャンや日本人の教会が設立した学校もあった。日本人が設立の主体となり外国人宣教師の協力を得たものも含めて、以下に紹介したい。

まずアメリカン・ボード系からみていこう。

当初、私塾といってよい規模の学校であった同志社は、徐々に体制を整えていった。80年9月、神学や哲学などを教えていた同志社英学校余科のなかに速成神学科をおいた。英語で授業がなされていたが、82年9月には特別科を設け、邦語で神学教育を始めた。さらに86年12月、余科を廃して神学専門科を設け、そのもとに英語神学科と邦語神学科の2科をおき、ここによやく正式の神学校の形式をとるに至った。87年7月、英学校普通

科に予備学校が設立された。88年6月、同志社の全校をあわせて同志社学院と称したとき、神学専門科は英学校をはなれて同志社学院神学部という独自の組織となり、さらに翌年9月に学院の名称が廃され、同志社神学校と改称して完全に独立した学校となった。<sup>20</sup>

宣教医ゴードンが新島襄に招かれ、79年から説教・教会学・賛美歌などを教え、社会学的研究を奨励した。アメリカン・ボード最初の宣教師として来日し、神戸で教会設立に努め、また聖書翻訳に従事していたグリーン、D. C. も、81年から同志社英学校教授となり、神学・旧約聖書・英文学を講じた。82年2月5日、安部磯雄や岸本能武太らが新島から受洗し、86年には日本組合基督教会が設立された。岡山教会牧師から86年9月に同志社へ戻った金森通倫が、88年9月、新島を助けて社長代理となり、89年6月、普通学校・同志社神学校・予備校の3校の校長を兼任した。83年2月には、今治教会の牧師をしていた横井時雄が同志社の社員（現・理事）となり、3年後、今治教会を辞して同志社教授となった。

この間、2回目の外遊中（84年）にも、未開拓の東北地方の宣教と教育のことが念頭に離れなかった新島は、86年に帰国した後、アメリカで知己になった元ニューヨーク副領事・富田鉄之助 1835.11.25-1916.2.27と協力して、キリスト教主義学校を仙台に創設する計画を練った。富田は受洗はしていなかったが、留学中に聖書講義を受け、キリスト教の理解者であった。

勝海舟の氷解塾で俊才といわれた富田は、仙台藩重臣・実保の4男で、67年に米国へ留学、翌年一時帰国したが、勝に諭されて再渡米、74年夏に再び帰国して結婚し、11月に再々渡米して英語と経済学を学んだ。岩倉使節滞米中は、これに随行し、ニューヨーク領事心得、ついで副領事に任命された。この間に新島との親交が生まれたい。維新後の政界は薩長閥の天下で、朝敵の汚名を着た旧仙台藩士の栄達は難しかったが、彼は優れた才能によって出世し、日本銀行第2代総裁、勅撰貴族院議員、東京府知事の要職を歴任した。

東京一致神学校は、伝道者の養成という方針を

受け入れ、ミッションとの関係も比較的良好であったが、アメリカン・ボード系の同志社は、より自立的であり、ナショナリスティックな傾向さえあった。そのため、事業を成功させるためには、クリスチャンではない人々や非キリスト教勢力にもある程度頼らざるを得ない事情があった。

当時、仙台には英学校創立を計画していた日本基督一致教会の押川方義という有力な競争相手が現れたが、新島の側には富田のほか、宮城県令・松平正直や県の最高幹部らの強力な支援があり、仙台に同志社の分校が開設される運びとなった。86年に宮城英学校が設立され、翌87年6月、東華学校と改名して華々しい開校式が挙行された。

理事長には松平正直が就任し、校長には新島が就いたが、東華学校の創設に際しては、和田正幾が招請されて経営と教授の任に当たり、校長代理を5年間務めた。また、新島は多忙なため、市原盛宏1858.5.17-1915.10.4を副校長として学校の管理にあたらせた。新島の欧米旅行に際して留守を預かり、86年、仙台に赴任した市原は、熊本バンドの一人で、同志社英学校余科を卒業すると直ちに幹事となって学校の経営に当たり、新島の信任を得ていた人物である。<sup>21)</sup>

幹事兼教師として片桐清治1856.2.22-1928.1.21が東華学校に招かれ、市原と和田を助けた。伊達家の陪臣・英之助の子として水沢に生まれた彼は、一の関師範伝習所を出て小学校教員をしていた79年夏、帰郷した同志社在学中の友人・山崎為徳によりキリスト教に接し、翌年、同志社邦語神学科に入学した人である。81年5月1日、同志社教会においてゴードンから受洗し、卒業とともに伝道師となって水沢地方に宣教を開始していた。<sup>22)</sup>

教会音楽家オルチン Allchin, George 1852.1.10-1935.11.28も東華学校の設立に参加した一人である。英国ケント州プラムステッド生まれの彼は、1872年にカナダへ渡り、5年後アメリカに移住し、ウィリアムズ大学およびメーン州のバンガー神学校を卒業、82年6月ネリーと結婚して、8月に来日した。特定の教会を担当せず、当初は大阪を中心として巡回伝道し、さらに各地に足を伸ばしていた。また、南北戦争の体験者でありイ

エール大学の卒業生のデフォレスト De Forest, John KinneHyde 1844.6.25-1911.5.8が74年来日し、アメリカン・ボード宣教師として大阪で伝道と教育に従事した後、この学校の教師となっている。

この学校はあたかも半官半民の学校として隆盛をきわめ、同じ仙台市内に設立された県立尋常中学校でさえ、東華学校に圧倒され、88年には廃校となったほどである。当初、東華学校のカリキュラムはキリスト教主義的色彩を濃く織り込んだものであったが、次第にその色を失っていった。<sup>23)</sup>

大阪では、86年9月1日、北区中之島4丁目に普通科の男子中学校・泰西学館が開校した。主として大阪教会が経営の責任を負い、宮川経輝（校長）、安藤乙三郎らが運営に当たった。独立自給による運営をめざしたが、保守反動期にあったことから経営が安定せず、加えて89年、校舎建築の負債で苦しんだ。アメリカン・ボード婦人宣教師ダニエルズ Daniels, Mary Bryant 1858.1.4-1909.7.8が大阪に赴任し、この学校で教鞭をとった。マサチューセッツ州ノーザンプトンで生まれた彼女は、8歳で父を亡くし、82年にスミス大学を卒業、母の死後、89年来日した。彼女の新しい英語教授法はダニエルズ式と呼ばれた。

新潟には北越学館が生まれる。87年10月15日、私立新潟英学校を母体に、加藤勝弥、成瀬仁蔵、阿部欽次郎、松田国太郎、スカッターらによって創設された。発起人の3分の2を教会外の有力者（県会議員ら）が占めたため、教育方針は不安定であり、アメリカン・ボードも同校と新潟女学校のために12人の宣教師を派遣した。当初の生徒数は80名、最盛期には夜間学生を除いて180名を数えた。

88年9月、学校町に移転し、教頭に内村鑑三を迎えた。アメリカから帰国してまもなく赴任した内村は、宣教師による無給の授業に異議を唱え、学校がミッションと教会の付属物となっているとして、経営者および宣教師たちと対立した。キリスト教に反発するグループが内村を支持する一方、強硬派の宣教師や信徒の教師が辞職、館長の加藤勝弥をはじめ自由党や改進黨に所属する発起

人が多かったため、事件は政争にまで発展し、3カ月におよんだ。結局、12月、内村が辞任して帰京することによって、いわゆる北越学館事件はひとまず終結をみた。<sup>24)</sup>

内村の後任教頭として、89年3月、『福音新報』や『基督教新聞』の編集に従事していた松村介石が赴任した。安井息軒に儒学を学び、16歳のころ神戸でアッキンソンから英語と聖書を学んだ彼は、横浜のバラ学校に入り、住吉町教会で受洗、築地大学の舎監を務めるかたわら、築地の東京一致神学校で学ぶが、宣教師と衝突して退職・退学し、岡山の高梁教会の牧師を務めた経歴の人である。

のちに家庭学校の副校長として留岡幸助を支えた小塩高恒1872-1943は、11歳のときから新潟在の伯父に育てられ、小学校から中学校に進学する傍ら、北越学館で英語を学んでいる。この間、宣教師 H. B. ニューエルの熱心な導きによりキリスト教の信仰を得て、88年4月、越後長岡教会で洗礼を受けた。<sup>25)</sup>

日本組合基督教会岡山教会に関係する人々によって、キリスト教主義男子校（のちの薇陽学院）が88年に設立された。設立者は丸山真応、校長は当時岡山教会の牧師であった安部磯雄が就任し、小野田元が幹事を務めた。教師としては、宣教師ベティ、ローランド、広川元吉らを迎え、会計は中堀直秋が担当した。英・漢・数の3学科を集中的に教え、特に英語教育に力を入れた。当初は、東中山下の岡山教会の南隣にあり、50-60名の応募者があったが、試験は厳しく、入学を許されたのは半数であった。<sup>26)</sup>

東北地方においては、組合教会（アメリカン・ボード）に対して、一致教会（改革派教会）というライヴァルが現れる。日本伝道に新たに参入してきたアメリカ・ドイツ改革派教会 Reformed Church in the United States (German) が活動を始めたからである。

この教派は、ライン地方のドイツ改革教会からの移民によって1747年に組織されたアメリカにおける改革派教会で、ツィングリ、Hを源流とする。当初、母教会に属する長老会として各地に分設さ

れていたが、1863年に憲法を改正して総会を組織した。ハイデルベルク信仰問答を標準とし穏健中庸のカルヴァン主義に立って長老制を採る教派である。1878(明治11)年、海外伝道局を組織するとともに、日本に宣教師を派遣する決議をしている。これに基づいて、翌年、グリング、ムーア、ホーイが派遣された。

グリング Gring, Ambrose D. 1849-1934.12.19は、78年にイエール神学校を卒業した後、この派の最初の日本宣教師に選ばれて翌年6月に来日して築地に住み、84年にはハイデルベルク信仰問答を邦訳した。85年に来日した米国ランカスターのリフォームド神学校卒のホーイ Hoy, William Edwin 1858.6.4-1927.3.3と共に東京に元大工町（神田）教会を開設した。85年、グリングはホーイと共に東北伝道を開始した。<sup>27)</sup>

このアメリカ・ドイツ改革派教会の協力により、東北学院の前身校である仙台神学校が、押川によって創設される。

松山藩士・橋本昌之の3男として生まれ、押川家に入った彼は、藩立英学校を経て東京の開成校で英学を修め、さらに横浜英学校に移った頃キリスト教に触れた。ブラウンやバラらの影響のもとに福音主義の信仰を与えられ、72年に横浜でバラから受洗した。日本基督公会を組織し、派遣された新潟で医療伝道者パームと協力して困難な伝道に当たったが、大火によって拠点を失ったため東北伝道に目を向けた。80年、吉田亀太郎ら優れた協力者を得て仙台に移り、牧会伝道の努力を重ね、仙台教会を初めとしていくつかの教会・伝道所を築き上げた。

86年6月以降、グリングとホーイは日本基督一致教会と伝道協約を結び、押川方義らの東北伝道に協力することとなり、本拠を仙台に移した。日本人伝道者の養成を志す押川は、伝道拠点を求めつつあったホーイの協力を得て学校を設けることができた。

86(明治19)年5月15日、仙台神学校は6名の生徒をもって開校した。押川は院長として教育・伝道に当たり、また苦学生のために労働会を設けて便を図った。東華学校と仙台神学校との2大教

派の競合は、一方は男子中等普通教育、他方は神学校を設立するというように、当初は住み分けが成立した。ホーイは副校長として仙台神学校の運営に参加し、日本人教職養成の一翼を担った。米国ペンシルヴェニア州出身でランカスター神学校の卒業者であるシュネーダー Schneder, David Bowman 1857.3.23-1938.10.5は、4年間牧会した後、87年に宣教師として仙台に派遣され、仙台神学校の教授としてホーイや押川に協力した。

キリスト教伝道者の育成を目的として設立された私塾形式のこの神学校は、その後、仙台市内を転々とした。5年後に赤煉瓦造りの校舎を完成して東北学院と改称し、神学部に加えて予科（後に中学部・高等学部）を設置した。<sup>28)</sup>

山形県では、山形市旅籠町に山形英学校が開設され、87年11月21日、始業式が行われた。押川が英学振興を企図していた山形県知事の柴原和から英学校設立を依頼されたものであった。「英語をして諸学科を教授し併せて和漢の文学、ドイツ語を修得せしめ、知徳兼備の士を養成する」ことを目的とする、予科2年・本科4年の学校であった。県会議員の坂東東一郎が校主に就任して経営に当たったが、校長の押川をはじめ教頭の松村介石、ムーア、仙台神学校と兼任したシュネーダー、数学教師の真山良ら6名の教員はすべて熱烈なキリスト者で、ミッション・スクールとしての実を挙げた。生徒数は、初年次83名、88年92名、89年100名、90年138名と漸増し、学校は隆盛をたどった。英語教育の普及と共に、日本基督一致教会山形講義所と提携したキリスト教宣布にも貢献したが、89年、押川の渡米に伴い校長に坂東が就任、坂東も県会議員を辞するにいたり、経営難から91年に廃校のやむなきに至った。<sup>29)</sup>

山形英学校と東北学院で教えた教師に、アメリカ・ドイツ改革派教会の日本派遣第2陣の宣教師ムーア Moore, Jarius Polk 1847.11.27-1935.2.7がいる。彼はペンシルヴェニア州バックス郡パーケーシーに、スコッチ・アイリッシュ系の父とドイツ系の母との間の2男5女の末子として生まれた。73年ペンシルヴェニア州ランカスターのフランクリン・マーシャル大学を卒業し、アンナ・

アーノルドと結婚、3年間、師範学校長・高等学校長として活躍した後、オハイオ州ティフィン市のハイデルバーグ大学神学院に学び、78年に卒業した。その後、ペンシルヴェニア州ミラースヴィル教会で5年間牧会に専念した。83年4月13日に日本派遣を命じられ、同年9月23日に来日、グリーンと協力して東京で伝道し多数の青年男女を導き、85年の番長教会創立に至らしめた。また埼玉県各地へも伝道戦線を拡大し、この間、86年から半年間、学習院で英語を教えた。アメリカ・ドイツ改革派教会が宣教拠点を東京から仙台へ移すことにともない、87年に仙台へ転じ、まもなく山形英学校に招かれて英語教師となった。また、自宅で開講したバイブルクラスは山形教会に発展した。89年夏には仙台に戻り、東北学院神学部で教会史・神学などを講じた。

聖公会系としては、87年9月、奈良基督教会信徒の玉置格・井戸義光らによって奈良英和学校が創設された。キリスト教によって沈滞した奈良の雰囲気を取り戻そうとする意図に基づくものであった。小学校年齢の男女約30名の生徒で始められ、校長に玉置が、教頭には石川和助が就任した。<sup>30)</sup>

山城国乙訓郡に生まれ小学校教師になった玉置格1855.4.21-1923.8.4は、のちに法律家を志して奈良で弁護士・公証人として活躍、また奈良市会・奈良県会などの議員に選ばれた。85年春、中山貞楠と図って宣教師マキムに伝道士の派出を請い、同年12月2日、玉置宅で両家が受洗して奈良基督教会の基礎が置かれた。土地の名士で政治に関与していた彼が、大きな犠牲を覚悟してクリスチャンとなった勇氣はマキムから称揚された。

アメリカ聖公会からドーマン Dooman, Isacc 1857.12.22-1931.4.17が派遣され、ミッション資金で登大路に奈良英和学校の校舎を新築した。彼は、ペルシャのオルミヤ市で生まれたアルメニア人で、86年に執事となり、87年に司祭に按手の後、88年2月に来日している。奈良を本拠として諸教会を管理、トルコ帽を頂き、たくましい栗毛の馬に乗って各伝道地を巡回する姿は人々に強い印象を与えたといわれている。<sup>31)</sup>

群馬県では、高津仲次郎によって、86年、前橋市堅町に前橋英学校が開校された。校長は熊本バンドの加藤勇次郎で、教授6名(竹越与三郎、青柳新米、村山雪ら)の大半はクリスチャンであった。上毛青年会つづいて上毛青年連合会に加わり竹越の影響も受けた住谷天来も、前橋英学校の開設に参加している。普通科と速成科があり、教科書はすべて洋書が用いられた。生徒は87年当時166名(うち女子55名)をかぞえ、夜学校を加えて2部制としたが、88年には経営難もあって廃校となった。80年代の群馬県は全国的にも珍しく30余の英学校を数えたが、いずれも短命に終わった。しかし、この学校のみは前橋英和学校(共愛学園)に引き継がれた。<sup>32)</sup>

熊本県では、徳永規矩1861-1903.10.21が熊本英学校を建てている。

熊本県芦北郡津奈木村に徳富一敬の弟を父として生まれた彼は、70年に熊本に移り、元田永多塾や竹崎茶堂塾に学び、72年8月熊本洋学校に入学したが、年少との理由で翌月退学した。77年、上京して慶応義塾に入るが、翌年春バラの塾に転校した。79年2月の第1日曜日に横浜住吉町会堂においてノックスより受洗し、同年9月、帰郷した。81年の保守政党・紫鷗会の結成の際、これに反対して民権運動に投じた彼は、徳富蘇峰の大江義塾開校に協力し、みずから創立(82.3.15)と共に入塾して3年間学んだ。その後、帰郷して分校・岩城義塾を開き、かたわら小学校校長も務めた。大江義塾閉校の1年後、その復活をはかって、87年5月に英語学会を起こし、同年秋、海老名弾正を校長に迎えて熊本英学校と改称、翌年4月20日に設立認可がなされた。<sup>33)</sup>

このほか、日本基督一致品川(大井町)教会によって、85年2月5日、知本小学校(校名は箴言9:10による)が南品川宿に設立され、同教会の戸田忠厚が校主となり、長老教会ミッションの補助を得て、キリスト教主義の教育をおこなった。また、横浜共立女学校に学びバラから受洗した二宮わか1861.9.22-1930.10.25が、81年、横浜市不老町に警醒校を設立して教師となっている。89年には、元良勇次郎、神田乃武、外山正一の3名に

よって芝公園内に正則予備校が設立された。

各地の公立中学校等に赴任した宣教師も幾人かいた。

一時帰国していたが79年に再来日したカラゾルスは、静岡県中学校や秋田県師範学校などに勤務した。また、イギリス教会宣教会宣教師チャペル Chapell, Arthur Frederick は、87年に岐阜中学校に英語教師として赴任している。

当初から学生伝道を志した聖公会宣教師ロイド Lloyd, Arthur 1852.4.10-1911.10.27は、英語教員として自活しつつ、教室内外における人格的接触による伝道をみずから実践するとともに、同志を募って日本各地の公立学校に英語教員を送る事業を推進した。英国軍人であった父の駐屯地インドに生まれた彼は、ケンブリッジ大学で学んだ後、チュービンゲン大学でサンスクリット語を修め、イギリスで教職ならびに牧会に従事した後、カナダに渡り、84年に来日した。初め、福沢諭吉の家庭教師となり、のちに慶応義塾と商船学校で英語を教えるとともに、三田に希望教会を始めて一時かなりの成功を修めた。

アメリカ・バプテスト教会からは、クレメント Clement, Ernest Wilson 1860.2.21-1941.3.11が87年に来日し、水戸中学で英語を91年まで教えた。米国アイオワ州ダビュークに生まれ、シカゴ大学を卒業後、バプテスト神学校や中学校で教えていた人である。

73年に来日したアメリカ・メソジスト監督教会宣教師団最初の宣教師であるデヴィソン Davison, John Carrol 1843.11.19-1928の依頼を受け、アメリカ南メソジスト監督教会最初の日本宣教師として86年に長男夫妻と共に神戸に来任したランバスは、大分中学校の教師として、88年3月にウォーターズ Waters, Basil Washington を、続いてウェンライト夫妻を派遣した。

ウェンライト Wainright, Samuel Hayman 1863.4.15-1950.12.7は、イリノイ州 coronバスに牧師の子として生まれ、セントルイス市ミズーリ医学校を卒業後、医者となったが、偶然手にとった教会機関誌を見て大分中学校が英語教師を求めている

ることを知り、日本赴任を決意した人である。88（明治21）年に妻を伴って来日し、同年5月から大分中学校に勤務しつつ、大分南メソジスト講義所（大分教会）を開設、伝道した。

カナダ・メソジスト教会の宣教師イービーは学生伝道に熱意をもち、明治会堂で東京演説を催すなど活動していたが、東京本郷に中央会堂の建設を企てるとともに、カナダや英米のメソジスト教会の青年たちに日本における英語その他の学校教師招聘の要望に応じて授業と伝道に従事するように呼びかけた。受け入れ校により収入は異なるが、それをプールして相互に助け合い、ミッション・ボードに頼らず自給伝道するという構想であった。これに応じて87年以來、12名の青年男女が来日し、91年まで相当の成果を挙げた。<sup>34)</sup>

宣教師サンビー Saunby, John William 1858.8.25-1925.6.22は、その一人であり、山梨県尋常師範学校および中学校の教師として教えた。オタワで生まれ、ヴィクトリア大学を卒業した彼は、86年カナダ・メソジスト教会ロンドン年会で按手札を受けて日本へ派遣され、東京で日本語を学び、翌年4月、自給伝道隊の一人として甲府に赴任し、89年まで奉仕した。<sup>35)</sup>

カナダのオンタリオ州カロドゥン生まれのマッケンジー McKenzie, Daniel R 1861.2.16-1935.4.1は、金沢第四高等学校で英語を教えた。ヴィクトリア大学とウェスレアン神学校に学んだ彼は、学生時代に靈的リヴァイヴァルを体験して日本伝道を啓示され、自給自足の精神をもって88年に来日した。

## 註

- 1) 尹健次『朝鮮近代教育の思想と運動』東京大学出版会、1982年、28頁
- 2) キリスト教学校教育同盟『日本キリスト教教育史』、創文社、1993年、44頁（1900年10月24日から31日まで東京YMCA会館で開催された東京宣教師協議会の報告書 Tokyo Conference 1900の巻末に付された表）
- 3) 申沢正七編『日本の使徒トマス・ウキン伝』（改訂第3版）、警醒社、1967年、24頁 『金沢教会八十年史』、1966年、16頁 『金沢教会百年史』、1981年、20頁
- 4) 松平惟太郎『聖公会神学院史』、『神学の声』3巻1号、1956年、14頁
- 5) 戸川残花『監督ウィリアムス氏』、『太陽』1巻7号、1895年、46頁 元田作之進『老監督ウィリアムス』警醒社、1914年、5-28頁 海老沢有道編『立教学院百年史』1974年、3-15頁 海老沢有道『C. M. ウィリアムズ』、『日本キリスト教教育史人物篇』創文社、1977年、50-54頁
- 6) 参考文献；パチェラー八重子『若きウタリ同族に』警醒社、1931年 仁多見巖『アイヌの父ジョン・パチェラー』楡書房、1963年 同訳編『ジョン・パチェラーの手紙』山本書店、1965年 武田清子『ジョン・パチェラーとアイヌ人の自立』（『アジア文化研究』11）1977年
- 7) 『青山学院90年史』1965年、5-20頁
- 8) クランメル『米国メソジスト監督教会等の明治初年における東京の伝道』同朋社、1982年、10-40頁
- 9) 『信仰三十年基督者列伝』、警醒社、1921年、43-45頁 横浜メソジスト教会『日本メソジスト横浜教会六十年史』、警醒社、1931年、16-19頁
- 10) 『青山学院50年史』、1932年、9-22頁 参考文献；W. C. Barclay "History of M. E. Mission" 1959
- 11) 『鎮西学院九十年史』、1973年、7-18頁
- 12) 海老沢有道『メソジストの福岡開教』、海老沢有道編『維新変革期とキリスト教』（日本史学研究双書）、新生社、1968年、50-55頁
- 13) 『バルモア学院90周年記念誌』1976年、30-35頁 山崎治夫『地の果てまでーランバス博士の生涯』、同朋社、1960年、3-40頁
- 14) 『名古屋学院史』、1961年、11-19頁
- 15) 倉長巍編『加奈陀メソヂスト日本伝道概史』、警醒社、1937年、8-20頁
- 16) 『長町教会80年史』、1960年、5-13頁

- 17) 『関東学院史資料(第二集)人物篇』, 1977年, 30-33頁 Mrs. A. A. Bennett "A Sketch of Life and Character of Albert Bennett" 1913
- 18) 秋山操編『基督教会(ディサイプルス)史』基督教会史刊行委員会, 1973年 62-8頁
- 19) 参考文献; "They Went to Japan" 1949 C. E. Robinson "Forty Years of Missionary Work" 1924
- 20) 同志社々々史料編集所編『同志社九十年小史』同志社, 1965年, 59-61頁また312-313頁
- 21) 同志社々々史料編集所編『同志社百年史 通史編』同志社, 1979年, 20頁
- 22) 内田政雄編『天上之友2』, 警醒社, 1933年, 43頁 『同志社教会九十年小史』, 前掲, 65頁
- 23) 『日本キリスト教教育史』, 前掲, 107頁(共同討議: 工藤発言)
- 24) 松川成夫・本多繁「明治二十年代におけるキリスト教主義学校の一断面」, 『宣教研究』1, 1968年, 10-12頁 その他の参考文献; 本井康博「『宣教師レポート』に見る新潟女学校と北越学館」(敬和学園高等学校「敬和」89-171) 1975-83年, 同「D. スカッター書簡に見る北越学館事件」(『内村鑑三研究11, 12』1978-79年, 同「北越学館仮教頭・内村鑑三の誕生」(『敬和の教育3』) 1980年, 同「新島襄と加藤勝弥ー北越学館事件をめぐる」(『同志社談叢1』) 1981年, 同「内村鑑三と加藤勝弥ー北越学館事件をめぐる」(『内村鑑三研究16』) 1981年
- 25) 室田保夫『キリスト教社会福祉思想史の研究 「一国の良心」に生きた人々』不二出版, 1994年, 266頁
- 26) 『岡山教会百年史上』, 1985年, 32頁
- 27) 山本秀煌『日本基督教会史』1929(復刻1973)年, 警醒社, 56頁 『仙台東一番町教会80年史』1962年, 65頁 参考文献; O. Cary "History of Christianity in Japan, II" New York, 1909(復刻1976)
- 28) 大塚栄三『聖雄押川方義』警醒社, 1932年, 35頁 花輪庄三郎編『東北学院七十年史』, 1959年, 42頁 参考文献; C. W. メンセンディク著(出村彰訳)『ウィリアム・ホーイ伝ー苦闘の生涯と東北学院の創立』, 同朋社, 1986年 五十嵐正「ホーイ博士略歴」, 『東北学院時報』71, 1927年
- 29) 鈴木富生他「明治期における山形市の英学」, 『山形大学英語英文学研究16』, 1972年, 10-19頁
- 30) 浜田清夫『日本聖公会奈良基督教会80年史』, 1966年, 2-13頁 松島篤編『アイザック・ドーマン追悼集』, 警醒社, 1933年, 1-45頁
- 31) 日本聖公会歴史編集委員会編『あかしびとたち』, 同朋社, 1974年, 35頁
- 32) 萩原進『明治時代・群馬県史』上毛新聞社, 1959年, 29-30頁
- 33) 福田令寿著・熊本日日新聞社編『百年史の証言ー福田令寿氏と語る』日本Y M C A同盟出版部, 1971年, 58頁
- 34) 山鹿旗之進編『合同メソジスト教会小誌』1923年, 2-30頁 倉長魏編『加奈陀メソヂスト日本伝道概史』, 警醒社, 1937年, 5-23頁 J. W. Saunby "The New Chivalry in Japan, Methodist Golden Jubilee", Toronto, 1923.
- 35) 沢田泰紳『日本基督教団甲府教会百年史』1979年, 18-21頁 参考文献: "Japan Mission Year Book" 1927 H. Norman "One Hundred Year in Japan: 1873-1973. Toronto, 1981.